

歴史や文化、温かい人情にも触れることができ、おいしい食べ物を見つけたりと、楽しみはいくらでも広がります。

これからも健康に気をつけて、できるだけ長く今の暮らしを続けたいと願っています。

女神湖にて雑感

中村 恵美子 (蓼科)

標高1550メートルのこの地で、宿泊業を始めて18年経ちます。高原の涼しい夏、冬のスキー場、女神湖の散策などが楽しめるという事で、色々な場所の中から決めました。

始めた頃は、カップルが多く、その後ファミリー、実業団、修学旅行など、様々な方々がみえましたが、中でも印象深いのは、保育園に行っていた幼いお孫さんが、大きくなり、結婚、出産をして家族四世代が揃って、毎年元気な顔を見せて下さるお客様です。有り難いとともに、「このような方々のおかげで、長くやってこられたんだなあ。」と感慨もひとしおです。

お客様には、なるべく地元の野菜や、果物を食べていただくよう、菜ないう畑さんや、たてしな屋さんなども利用させ



てもらい、喜んでいただいています。

3人の子ども達が、小・中学校から転入し、バスの時間まで、図書館で待っていたり、成人式の会場になったりと、公民館には、大変お世話になりました。

お客様に少しでも笑顔で帰っていただけるようにと、6年くらい前から観光に携わる有志の会に参加し、観光協会と一緒に、スキーのお客様に立料産の食材で作った、豚汁や、おしる粉、すいとんなどを振る舞ったり、去年は里の方々からも、球根を提供していただき、たくさんのお客様に喜んでいただいています。この紙面を借りて、お礼を申し上げます。是非、春にきれいに咲

いた花を見においでください。

四季折々の変化があり、カラマツの新緑や紅葉、蓼科第二牧場からの雲海は特に見事で、好きな風景の一つです。道路沿いに植林した白樺も、あと数年で、見事な白樺林になるものと、期待しています。

近隣の施設等が一部廃業し、一時期に比べ、寂しくなりましたが、こうした立地、環境を大事にして、訪れた方々が、「また来たい。」と思っていただけるように、頑張っていきたいと思っています。

蓼科から伝えたいこと

及川 憲吾 (蓼科)

私が勤務する蓼科メディアアート美術館は白樺高原内の白樺湖畔にあり、私自身は2012年の夏にこのリニューアルオープンに伴い神奈川より移り住んでまいりました。来る前の白樺湖のイメージは、夏は避暑地として、冬はスキーエリアとしてシーズンを問わず楽しめる一大リゾート地と想像していました。現実はと言いますと、もちろん全シーズン型の観光地という側面はあります。ただ想像していたよりも観光客も少なく、周辺のホテルや土産屋さんなども閉鎖している

ところも見受けられ、ちょっと拍子抜けしたというのが正直な感想でした。

ただ、以後ここで働いていくにつれ、どうやったら来館いただいたお客様に楽しんでいただけるか、どうしたらたくさんの方に来館いただけるかと考えることが仕事へのやりがいにつながってくるようになりました。まだまだ観光業に携わって日も浅く、試行錯誤の繰り返しですが、周辺ホテルや観光施設などの多くの方々にご協力やアドバイスを頂きながら、日々悪戦苦闘しておる最中です。当蓼科メディアアート美術館一施設としてサービス向上・顧客満足度UPによる集客増を目指すことはもちろんとして、ここ白

